

広報東白川

発行所 岐阜県加茂郡
東白川村公民館
印刷所 今井印刷

蚕業振興計画

産繭目標八、三五〇貫

桑園目標は反収二〇貫に

蚕業振興五ヶ年計画の第三年目をむかえた本村ではさきごろ、蚕業振興協議会において、今年の蚕業振興計画が樹立され、総収繭目標八三五〇貫とし、その増産対策が講ぜられつゝあるが、ことに昨年度は、春蚕掃立期を目前にひかえた四月下旬の凍霜被害の大きかつただけに、ことしの春蚕こそはと、その張切り方も大きく、その成果が期待されるるところである。

特に、今年には桑園の肥培管理を完全に行い、全桑繭化をモットーに、桑葉の反収二〇貫を目標として、目下、その肥培管理競技週間中であるが、この二月十五日から始まつた桑園の清掃も終り、いよ／＼本月十五日からは、桑園の消毒週間に入りますが、各養蚕農家では次の事項について励行し完全な消毒管理に努めましよう。

① 雌象虫、介殼虫、膏薬病の併殺
② 機械油乳剤一升に水一斗を入れ、機械油乳剤一〇〇倍液を作る。こゝでDDT乳剤を二、五勺（小盃に軽く三杯）を加え良くかき押し、反当二斗四斗撒布する。
③ 金毛虫、尺取虫の補殺、また、全期間を通じ次の事項について、その改善管理につとめよう。

昭和三十一年度東白川村蚕業振興計画（達成目標）

組合別	春		初秋		晩秋		合計	
	掃立量	收繭量	掃立量	收繭量	掃立量	收繭量	掃立量	收繭量
五越神	一、三〇〇	一、七〇〇	一、二〇〇	一、六〇〇	一、五〇〇	二、〇〇〇	一、八〇〇	二、二〇〇
加原土	一、三〇〇	一、七〇〇	一、二〇〇	一、六〇〇	一、五〇〇	二、〇〇〇	一、八〇〇	二、二〇〇
計	二、六〇〇	三、四〇〇	二、四〇〇	三、二〇〇	三、〇〇〇	四、〇〇〇	三、六〇〇	四、四〇〇

成年祭 今年も記念植樹で健康調査は二月下旬

成人としての自覚をたかめ、立派な社会人として、自ら生き抜こうとする青年、成人祭は、昨年来、

東白川村成人記念植樹地

成人としての自覚をたかめ、立派な社会人として、自ら生き抜こうとする青年、成人祭は、昨年来、

この四月七日は、揖斐郡でも多くの木を植えることなっており、

今年もこの機会に、より一層植樹熱をたかめ、一本のわが村将来の繁栄に備えたいものである。

なお、ことしの成年該当者は、男四七名、女二二名に呼応して、有意義に行計六九名となつており、をうという訳であり、若木これらの将来の健康を守るの伸び行くさまを今後の社に寄せてこの記念植樹で大

農事改良組合の結成

部落農業団体強化を図る

新時代に即応した新しい強化対策が検討されつゝ、村造り運動の一環として、各種農業団体の育成強化を圖り、自主的な農業経営活動の推進助長に努めると共に、農政組織、農業経済機構の合理化をねらひとして

この「農事改良組合」の性格は、従来の生産組合の不合理な面を改め、更にその活動分野が拡大されたわけで、この組織の中には、新たに、農事部、防除部、畜産部、養蚕部、木炭部、青年部、婦人部などを設け、総合的な農業活動の推進母

体として、従来とかく個々ばら／＼に行われていた農業団体の活動の不合理な点を改め、相互の連絡協調と組織の改善がなされたわけ、名実共に自主的な農業経営の推進力として、今後の活動が期待される。

なお、この「農事改良組合」は去る二月二十八日から発足することとなつたが村では同日生産組合長会議を開催し、その趣旨の徹底と、規約その他細部についての説明を行い、生産組合長を通じて、各農家に呼びかけると共に、この趣旨をよく理解し、団結きよ固なる結成をのぞんでいる。

この「農事改良組合」の性格は、従来の生産組合の不合理な面を改め、更にその活動分野が拡大されたわけで、この組織の中には、新たに、農事部、防除部、畜産部、養蚕部、木炭部、青年部、婦人部などを設け、総合的な農業活動の推進母

誠実な申告を

昭和32年度村民税

本年もまた村民税の申告をしていたく時期となりました。すでに各組長さんからお手もとに申告用紙が配布になつて着々準備をお進めのことと存じますが、その中、農業所得については別表のように標準率が決定されました。水稻の標準率は、今年も昨年同様各個人別に算出します。従つてこの表には村内平均のみ掲げました。

昭和31年分農業所得標準率表 (本村関係抜萃)

種目	区分	単位	標準率	摘要	
普通田	水稻	反当り	15,730円	平均	
	裏作	反当り	2,450		
普通畑		反当り	10,000		
桑畑		反当り	2,260		
養蚕	精繭	貫当り	420	収入百円当り 堅52円 雑47円	
木炭		俵当り	150	収入百円当り 35円	
山羊	搾乳	一頭当り	2,700	収入百円当り 51円	
緬羊	採毛	一頭当り	2,200		
養鶏	飼育	一羽当り	100羽未満 450		
仔牛	販売一頭当り	収入金額	率	控除額	
		20,000円未満	%	17,000	
		25,000 "	75	12,000	
		30,000 "	80	13,250	
		35,000 "	85	14,750	
		40,000 "	90	16,500	
40,000円以上	95	16,500			
養兔	販売	収入百円当り	45	一頭当り 190円	
推茸	採培	製品貫当り	1,500~1,700	収入百円当り 55円	
養豚、仔豚、養蜂、茶、きのこ等				実況による	
わら工品	製造			省略	
諸控除	農耕役牛馬費控除	牛	一頭当り	15,100	耕作面積7反以下の場合1反につき2,000円減額
		馬	一頭当り	19,500	
		馬	石当り	1,100	



ねずみ退治を 薬剤全戸に配付

伝染病や食中毒を媒介したり、食糧や農産物に大きな害を与える「ねずみ」を駆除するには、今が最も適当な時期です。

最近各家庭にねずみが甚しく増加しているため今回全村の一斉駆除を実施してねずみの根絶を期し度と思います。

先日各家庭に薬剤を配付し一斉実施を願つているが退治は完全に行いましよう

①ねずみの生育と繁殖
②ねずみは生後十日間前後で眼を開き約百日位で発育を完了する。
③交尾後約三週間で分娩し分娩後七日位を経れば早くも発情し交尾を求めむ。

④ねずみは生後一年で初老し生殖力も減衰し二年位で自然死する。
⑤繁殖は春と秋が一番多く種類によつて異なるが大体一回に五頭から十頭位生む。

⑥ねずみの習性
⑦活動は主として夜間であり聴覚が特に発達している。

⑧巣は暖かくて暗い食物と水の便のよきところ。
⑨ねずみに一切の飲食を与えないとすると冬で二層夜で夜ぬ。

計量器の定期検査

届出(三月二十日)まで

計量法にもとづく計量器(類)身長計、量尺(長さ計、体積計、はかり)おもり、分銅(類)の定期検査が近く実施されることになり、先日組長さんを通じ廻覧でお知らせしているが次に該当する計量器は洩れなく検査を受けて下さい。

①検査を受ける計量器
▽長さ計(直尺、物尺)はさみ尺(材木尺、ノギス)
②検査料 無料
③検査日及び場所

▽体積計(木製円筒形、木製方形、斗、概、金、属製)ます
▽はかり(手動ばかり、天秤、皿、合ばかり、棒ばかり(類))指示ばかり(自動ばかり類)
▽おもり(おもり、分銅)

縦覧は20日迄 固定資産課税台帳

村では、三月一日より三月二十日まで固定資産課税台帳の縦覧を致しておりますが、御存じのように固定資産のうち土地と家屋の価格の評価は、三十年度まで毎年行われてきたが、経済の安定に伴い、市町村の課税事務を簡素化するため二十九年度の税制改正で三十一年度、三十三年度、以後は三年おきに行います。

したがって本年分の台帳価格は昨年中に増改築や損壊などの変更の生じたかつた土地家屋については三十一年度の価格と変わらぬ。昨年中に右のような特別事情によつて台帳の価格により難いものについては、村で評価して価格を決定し、台帳に登録致しましたので、該当する方は、台帳を縦覧されたいと思ひます。

四月十五日 五加小学校
十六日 神土公民館
十七日 越原小学校
なお、細部は役場係までお問合せ下さい。

乳児検診

三月中旬 実施

可愛い、赤ちゃんと健康に育てるために今年も乳児の一斉検診を実施することとなりました。

三月十七日にツバクルン接種と十九日に健康診断を実施しますが、該当者は昭和三十一年中に出生した乳児全員であるから、洩れなく受検して下さい。

入学児童 一二二名

三十二年度の新学期をかえ、こと新たに小学校へ入学する児童は、さき組長さんを通じ廻覧で、お知らせしたが昨年度に比べ一四名減少している。なお各校下別の入学児童数は次の通り。

神土	男 一六	女 二〇	計 三六名
越原	男 三一	女 二〇	計 五一
五加	男 一三	女 一二	計 二五
計	男 六〇	女 五二	計 一二二名

農事教室

(三月の農業)

麦と菜種の 手入れ

小麦

三月は麦の幼穂形成の仕上り期である。麦は莖の節立つ頃から幼穂が形成し始めるが、この大切な時期に栄養が不足すると、穂数が減少し亦折角出た穂も小さくなるから、元肥の切れかゝる頃、即ち三月中旬頃に窒素五〇〇〇(五)〇〇〇(三)〇〇(加)里五〇〇〇(五)〇〇(塩)換算一〇〇〇(五)位を穂肥として施すと効果がある。

「家畜」の飼ひ方

近頃我々の耳には今迄に聞いた事のない家畜の病気が出て来ます。昔はこんな病気はなかつたのに又この様に種付の率は悪くなかつたのにと首をかしげる方もあると思ひます。

家畜と云う動物は我々の先祖が野生の動物をその必要に応じて飼ひ馴したものである事はよく御存知の事と思ひます。人間が飼う前には自由に野山に生息し自分の好きなものを自由に充分に食べて、日光浴も運動も自然であるために自由に行つて居た為に病気の抵抗力も強く外敵に対しても強かつたものを人間が飼う事によつてこの自然の環境から

肥切れになると植物体の栄養が悪くなり、花の数や、サヤ数が少くなるばかりでなく最も恐しい菌核病に侵され易く、粒が肥だしないので著しく減収するから追肥はどうしても開花始め頃迄に施す事が大事な事です。追肥の量は種々の条件により一がいにいえないが、硫酸の二と三は或は下肥の八〇位が普通です。

指導部だより (尿素肥料)の 使ひ方

今度、試験成績の結果先日座談会の折説明致しました点より一部訂正になりましたので次の方法で使用して下さい。

使ひ方は(訂正事項) 耕起前尿素を打込んでさえおけば直に水に入れても大丈夫である。むしろ施してから余り水い間水を入れないでおくのはよくない。

水田中で尿素を施して三日目にはその六七割はアンモニアに交つており、五日目には全部アンモニアになっている。しかも水を入れた場合も同様であるから安心である。



△問 戸主と戸籍筆頭者とはどう違いますか(学生) 【答】旧法中(昭和二十二年五月二日以前の法律)は家という制度が有つて戸籍は総てこの家毎に編製され、その家長が戸主になつていて法律的にも相当な権限を有していたのであるが、新法(昭和

△問 この村に本籍、住所を有して、たまく 二十二年五月三日以後の新しい法律)施行と同時に家の制度は全廃されて戸籍も夫婦とその子毎に編製されることとなつたその場合戸籍の筆頭に記載された者が戸籍筆頭者であります。

△問 生育は極めて順調に進み、この分なら昨年昨年の競作田を相当に上廻る成績が得られるのではないかと、期待をしてきたが、メイ虫の発生と稍秋落ちの症状を示し、本人としては決して満足すべき結果ではなかつたと思はれるが、それでも昨年に引續いて増産躍進の部に佳良賞を獲得し本村稲作技術の優秀性を果下に示された事は誠に喜ばしい限りである。

△問 戸主と戸籍筆頭者とはどう違いますか(学生) 【答】旧法中(昭和二十二年五月二日以前の法律)は家という制度が有つて戸籍は総てこの家毎に編製され、その家長が戸主になつていて法律的にも相当な権限を有していたのであるが、新法(昭和

菜種 なたねの堆肥は、抽苔期と開花始期の二回に施すの

自然であるために自由に行つて居た為に病気の抵抗力も強く外敵に対しても強かつたものを人間が飼う事によつてこの自然の環境から

いでおいた場合、三日目に失がある。 湿田の場合は浅水として耕起前に施す。

△問 戸主と戸籍筆頭者とはどう違いますか(学生) 【答】旧法中(昭和二十二年五月二日以前の法律)は家という制度が有つて戸籍は総てこの家毎に編製され、その家長が戸主になつていて法律的にも相当な権限を有していたのであるが、新法(昭和

坪刈り結果 坪数 坪当り 株数 重量 坪 BA 四株 重量 八八〇匁 〇坪 BA 六株 重量 六七九匁 〇坪 BA 三株 重量 三九七匁

安江久吉氏 汗の結晶 昨年六月十五日発行の本紙に「時の話題」として掲載した、米作日本一競作会に参加した安江久吉氏のその後の結果は如何になつたかをお知らせします。 苗代から本田にかけて、

在所である白川町で子を出生しましたがこの場合子の出生届はどこへすればよろしいか。(M生) 【答】出生の届出地は本籍住所を問わず出生地の属する市区町村役場にする事となつております。ですから出生地以外の本籍でも住所地でも届出は出来ません。 これは死亡届についても同じです。

青年学級だより

青年学級の学習方法については、従来からいろいろ試みられてい
るが、単に机上のみの学習をはなれて、自分たち実際に目で見、心
でたしかめる体験的な学習への試金石として、去る二月一日、神土
青年学級では長野県馬籠、中津川方面への見学旅行を行った。コ
ーストは、付知、坂下、落合、馬籠、中津川、大井、蛭川、黒川、白川
口、神土……と云う日帰り一巡コースで、文豪島崎藤村の記念堂、
本州製紙中津川工場等を見学した。
次に掲げる一文は、学級生の見学後の感想文である。

信濃路

恵那路

暖く抱くようにそびえる
恵那山ろくろの長野県神坂村
馬籠、彼の大作々夜明け前
々によつてあまりにも有名な
な藤村の故郷に来て、私は
何を感じたか……
そこに見たものは、旧中
仙道の街道筋に、いまは細
々と生活しているらしい民
家と、この寒さに凍りつい
た様な空気があつた。
馬籠本陣の藤村堂は急な
石だたみを登りつめると、
そこにある正面の土壁に
「心につながらるふらさと」
「心懸うふるさと」「心かよ
うふるさと」と書かれた碑
があり、かつての自然主義
文学の最高峰であつた文豪
の過去をしのばせて、ほの
かな郷愁すら感じさせる。
しかし、藤村の過去をその
まゝ伝える記念館に入つて
彼の代表的な作品の数々、
あるいはその草稿を見て少
なからず文豪の偉大さによ
つて過去の文豪であるとの感
を禁じ得なかつた。
あの若葉集、或は千曲川
旅情の詩など、私共が愛唱
した自然へのノスタルジア
に満ちた詩も、矛盾と偽善
に満ちた現代の多くの人々
が、だゞ文学としてのみそ
れを感じて心強い何ものか
が伝わつて来ることもある
うかと私は疑問を抱いた。
そして文学というものが、
如何に虚飾と誇張に満ちた
ものであるかを感じた。た
ゞ彼の所蔵の品々の中に、
一茶の軸だけが妙に古くさ
く、また妙にひねくれ者の
如く、妙に孤独めいて印象
に残つた。これは、藤村の
文学を理解せずして云う生
意気な言葉かも知れないが
私の卒直な感じである。
中津川は、古くは中仙道
の重要な宿場として、今は
新しい工業都市として生き
ている町である。

屋根の低い、押しつぶさ
れたような中からも……工
場の煙突からはき出されて
いる煙の如く何か新しい息
吹きに似たものを感じられ
させた。
本州製紙を見学して、発
展しつつある工業を身近か
に感じ、科学というものを
すばらしいと思つた。あの
一個の木片がいくつかの工
程を経て、現代に無くては
ならない紙となり、文化の
勝動体となつていることは
私にとつて一つの驚きであ
つた。山に囲まれた中津
川が新しい社会的な背景の
下で、めざましい発展を遂
げるであらうことを、しみ
むと感じたのである。
(係より) こうした貴重な
体験を通じ、それら何か
身にふれるものがあつたこ
とを思うが、これらの感想
を記録したり、お互いの意
見を交換する楽しい学習活
動を続けましよう。

わが村の展望

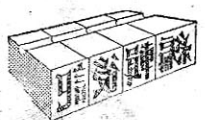
〔日刊新聞の〕
〔全面をかざる〕

大正時代
のはなし

古きをたづね新しきを
を越えて吹き来り、電燈事
業の計画さえあり、親しく
り一歩前進するには、歴史
をたづね、その考証をもと
として、明日への発展に資
さなければならぬ。
次に掲げる記事は、大正
時代、当時の岐阜日日新聞
(現岐阜タイムス)が「東
白川発展号」と題し、大正
八年五月一日発行し、紙
面四ページにわたつて、当
時発展途上にある東白川の
全ぼうをあまねく紹介して
いるが、以下はその中の一
文である。
東白川村は元、神土村、
越原村、五加村の三カ村に
分れ居りしを、明治二十二
年町村制実施に際し合併し
て一カ村となれり。
今や大正の開けゆく時代
に全村民の心理状態一新し
て、行政に産業に教育に全
く理想の域に向い、更に時
代の要求として、文明の風
は、かの重畳たる千山万岳
を越えて吹き来り、電燈事
業の計画さえあり、親しく
り一歩前進するには、歴史
をたづね、その考証をもと
として、明日への発展に資
さなければならぬ。
その一大発展を遂げ居る事
実を見て、驚奇の目を張り
しものを一切に当局に向
つて、東白川村のため、一
は国家福利の進展上、一日
も速やかに公衆電話の設置
されん事を懇望に堪えざる
なり。
若しそれ、山水の美に誇
る東白川の清調を語らんか
一輪の明月さへ渡る夜、月
影淡き白川河畔に一歩を踏
めば、それは柳暗花明の下
より洩れ来るゲン歌のさん
ざめくを聞き、その身の全
く美しき絵巻物の如き夢路
をたどるの思いを湧かさし
むべく、花柳界の繁昌また
以て街のイン脈を測るに足
らん。
ああ、この山清水麗し
自然の大量に支配さるる
東白川の郷土は、春夏秋冬
を通じて、夢の如き山水美
に抱かれ居るを以て、一面
は天下の絶景たり。永久に
不変に――その山容に水
て最も好適なる歡樂の地と
いうべく、その春は、清き
流れの白川に沿う山嶽一帯
の岩つづじが紅く燃えて水
も、岐阜市より下麻生町ま
に映り、夜は石を洗う水瀬
で自動車を通るあり、白
川の響き一つ一つに河鹿の
響き一つ一つに河鹿の響き
を添へて、その夏は暑さを
知らぬ白川溪の緑は珠を溶
かして水に流るる静けさよ
その秋は満山の紅葉かつと
燃えて、火焰の山かと思わ
るサン燦の美よ。その冬
はひんふんたる白雪の浄衣
に包まれたる気高き四山の
風色よ。
東白川は真に自然美の最
も勝たるもの――例え俗物
が如何に入り込むとも、こ
の山水を俗化すること能わ
ざらん。再び、東白川

く住民の意志の交流を因
る上の手段である。
故に、この広報が役所
から発行する官報ではな
く公(おみやげ)即ちみ
んなの心の郵便ポストで
あつてほしい。
できれば、この広報もせ
めて毎回一ページ位はみ
んなからの建設的な意
見や記録や、明るい話題
でうづめてみたい。
どうか、沈香もたぎ、へ
も遠慮なくぶつばなす意
気込みで、どしどしお願
いする。(編集者)

▼ことし
の新企
画?と
して期
待をか
けて募
集し
わが村の将来につい
ての論文も、この二月一
日一応締切つたが、
その間の応募数は何ん
と〇〇三編……淋しい。
広報活動の使命は、命令
や報道ではない。協同の
社会をよくするため、広



明るい家庭
明るい社会
はみんなの手で